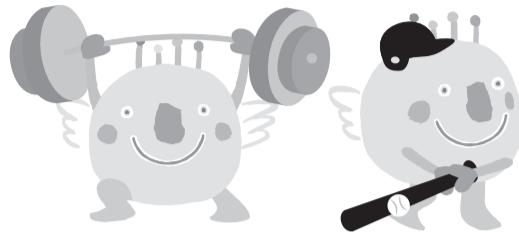


よしかわ通信



りんどう
凜道

いきいき茨城ゆめ国体

若葉の鮮やかな季節、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

平成が終わり、令和の時代となりました。新しい時代が始まる、祝福ムードの10連休です。この10連休に長期旅行を計画している人も多くいると思いますが、歓迎する声ばかりではなさそうです。病院や介護施設、保育園など、休める職場ばかりではありません。交通渋滞も心配です。4月に入学、入園した子供たち、1ヶ月たつてようやく慣れてきたところに10日も休んだら、また最初に逆戻り。5月の運動会の練習は大丈夫?なんて声も聞こえてきそうです。学校では授業数が確保できなくて困っているとの報道もありました。有給休暇の取得を呼びかけるなら、日本全体の一斉休みを作るのではなく、個々が自分の都合で連休に出来たほうがよっぽどいいと私は思います。どこに行っても混んでることを予想すると、出かけることも躊躇してしまいます。令和の始まりを、大きな事故などなく平和に迎えたいものです。

平成最後の東京マラソン、3時間38分で完走しました。これからもがんばります。



発行

高萩市議会議員

よしかわどうりゅう
吉川道隆

高萩市安良川686
TEL 0293-24-0833
FAX 0293-22-3340

ホームページ
<http://www.douryu.net>
E-mail
info@douryu.net



平成31年3月議会 議案質疑 反対討論

議案 第10号 **行財政健全化継続のため 市長10%、副市長6%、教育長4%の給与カットを平成31年度も延長する**

この条例は元をたどると、草間元市長の時に決められたもので、当初、**市長10%、副市長8%、教育長6%のカット**だった。草間元市長の在任中はずっとその割合だった。その後、小田木前市長になったときに、泉前副市長と小沼前教育長は、県の部長クラスの方々で、そういう方に、高萩に来ていただくのに、そんなにカットしては申し訳ないから、2%ずつもどして、副市長6%教育長4%にした、という経緯がある。

このことから考えると、現状なら、削減割合は当初の副市長8%教育長6%に戻すべき。総務委員会の時に、総務部長は「その経緯は知らない、小田木前市長の判断でそうなった」と言っていたが、私たち議員は、その条例を審議するときに説明を受けている。議員に説明した内容を職員が知らない、ということはあり得ない。職員の多くの方は知っている。**委員会の時の冒頭で、この議案の目的は何なのかと市長に確認した**。そうしたら、今回の改正の目的は、**当初の行財政健全化を継続するためだと**、市長は答えた。それなら、今回の改正はおかしい。元どおりに戻すべき。今年は、小中学校にエアコンをつけるから電気代も大幅に増える、ゴミ集積所管理の報奨金や、高齢者の運転免許返納時の助成など、市の財源の持ち出しもたくさんある。そういったところに少しでも回せるお金を残した方がいい。今回これで通ったとしても、途中で改めて改正すべきだと、それも無理なら、来年は必ず改正すべきだ。**あくまでも、この給与削減の目的が、高萩市の財政健全化のためだ**というのなら、今までの経緯から考えて、この削減割合では賛成できない。

改正による給与の比較

単位 円

	本来の給料	当初の減額措置	今回の改正
市長	845,000	760,500 (-10%) = 760,500 (-10%)	
副市長	695,000	639,400 (-8%) < 653,300 (-6%)	
教育長	635,000	596,900 (-6%) < 609,600 (-4%)	

確かに本来の給与よりは少ないが、草間元市長の時よりは多いということになっている。

平成 31 年 3 月**一般質問**

中心市街地活性化について

質問 駅前にルートインを誘致する計画を中止にした際に、これからは市街地活性化のプロジェクトチームをつけて検討すると市長は言っていたが、その検討結果、この1年でどういうものが検討されたのか？

市長答弁 中心市街地活性化プロジェクトチームにおいては、中心市街地における施設や住居の集約と郊外の生活拠点を公共交通ネットワークによって結ぶコンパクトシティ・プラス・ネットワークの考えを基本に主要な交通結節点であるJR高萩駅を中心として、ソフト・ハード両面からのアプローチで活性化方策の検討を進めている。

ソフト面では、まちなか大パーティーやひな祭り、まちなかスタンプラリーなど、官民協働によるにぎわい創出への取り組みをはじめ、関係団体との検討状況の共有や意見交換など。ハード面では、新年度予算において、高萩駅前口タリーやバスターミナル付近、都市計画道路等の整備などについて具体的な取り組みを進めている。

また、今後は、高萩駅と同規模であり、駅前が整備されている箇所の視察を予定している。さらに、中心市街地のにぎわいづくりの手法等を学ぶために、多くの自治体で中心市街地活性化等のタウンマネジャーとして活躍している方を講師として招き、市内で中心市街地活性化活動に取り組む団体等と勉強会を開催する予定。

質問 駅前広場でやってきた「うまるしえ」、市街地活性化に一役買ってきたと思うが、最近、全く開催しなくなつた。どうなったのか？

月に一度のお楽しみという感じで定着をしていたが、どうしてそういう駅前のイトヨーカドー跡地のにぎやかさのためにやっていた事業が、なくなってしまったのか。これもプロジェクトチームの考えなのか、方針なのか？

市長答弁 「うまるしえ」をやっていないという原因是、プロジェクトチームには何ら関係はない。やはり充電期間等もある。実行委員のほうの運営上の問題であると私は認識している。

質問 それでは、イトヨーカドー跡地を利用しての新たな企画があるかどうか、市長として個人的なアイデアがあればお尋ねしたい。

市長答弁 中心市街地活性化は多くの人がまちなかを行き来し、人が集まるにぎわいのある場所づくりだと考えている。これを実現するためには、中心市街地に買い物をする場所、交流する場所などを創出し、さらにそこに集まりやすいよう道路や交通網などの整備をしていく必要がある。そこに活力をもたらすには、行政だけの力ではなく、地域の住民や団体を初め元気に活躍する市民の方々の御協力がなければなし得ないもの。これからも本市にふさわしい中心市街地について調査研究しながら、その実現に向けて取り組んでいきたい。

質問 道路の整備、交流しやすいように環境づくりも大事だが、やはりアイデアがない人は寄ってこない。市長も何かアイデアを出していただきたい。ホテルのかわりに大型スーパーの誘致という市長の強い意気込みが以前の答弁だった。どうなっているのか？

市長答弁 駅前大型商店施設跡地への大手スーパー等誘致に係る交渉については、私が市長に就任してから複数の大手スーパーの関係者と6回ほど実施しているが、具体的な話にまでは至ってはいない状況。引き続き、誘致に精力的に取り組んでいきたい。

質問 イトヨーカドー跡地がいくら民地といえども、前市長のときにはルートインホテル誘致の計画が進んで、議会もそのときは承認をした。市長はそれを中止にした責任がある。前市長は任期3年でそこまで進めた。大部市長は就任して1年。あと2年でそれにかわる計画を責任を持って進めるべきだと思うが、どうか？

市長答弁 早期に成果が出せるよう全力で、責任を持って進めていきたいと考えている。

質問 市長選が終わってその後、私の周りの市民の方はやっぱりルートインは来てくれたほうがよかったという声が多い。「大部市長を応援したんだけど、ルートインは来てほしかった。」という意見もある。市長はそう言った思いにこたえ、責任を持って市の発展のために、中心活性化のために、頑張っていただきたい。

2019 高萩市観光振興計画 素案

平成31年4月5日から平成31年4月26日まで市民の意見を募集していた「2019 高萩市観光振興計画 素案」が、高萩市ホームページで公開されていました。高萩市の目指す観光の姿の実現に向けて、計画の体系が設定されています。本市の観光分野の洗い出された現状と課題からまとめると次のようになっています。

課題	基本方針	コアプロジェクト
① 観光動向に季節的な偏りがある	1 観光を進めていくための市民の意識づくり・担い手づくり	1 周遊・通年型観光につなげるプロモーション
② 資源の観光コンテンツとして十分に活かしきれていない	2 観光客を惹きつけるまちの魅力づくり	2 海・山を生かしたアクティビティの実施
③ 点在する観光の目的地のみを訪問し、長く滞在してもらえない	3 高萩市をすきになるファンづくりプロモーション	3 食の魅力づくり
④ 観光を進めていく基盤が整備できていない		4 滞在型ツーリズムづくり 5 観光振興の機運づくり(担い手・組織づくり・つながりづくり)

この方針のもとに基本施策を設定し、具体的なアクションプランを定め、取り組んでいくということです。

課題については、昨年度、観光動向調査、事業者ヒアリング、視察することによって出されたものであり、私が気づいた点として、その中で、「事業者ヒアリング等による市の現状」の一部を抜粋すると、以下のように書かれていました。

○日帰り・宿泊などの観光客の動向について

- 課題
- ・市内の宿泊施設は少ない(周辺の日立市や北茨城市に施設が集中)
 - ・宿泊施設がもともと少ないと加えて、宿泊の夜に外で飲食をする人が昔と比べて減っている。



○移動手段について

- 現状
- ・市内に目立ったレンタカーカー会社がない。

- 課題
- ・周遊ニーズがあっても、移動手段がないため観光客が実現できない。

「市内に宿泊施設が少ない」「レンタカーカー会社があったら」と思っている事業者はいるということがわかる。今さらだが、ルートインホテルにレンタカーカー会社と販売店を併設するという計画だったことを考えると、これらの課題を少しでも解消できたはずだった。駅前に宿泊してレンタカーで観光スポットを回るということも出来たのに…と思う。

現在、市では駅西側バスターミナルの整備を計画している。バスで観光スポットを周遊するルートづくりも可能かと思うが、宿泊施設が少ないとなると、日帰りか、既存の施設で収容できる人数となると限られる。宿泊施設からは、収益を上げたいとの声はあるものの、観光が成り立たないと稼働率は上がらないとの声があつたらしいが、自らの魅力アップも検討したうえで、観光地も整備する、を考えないと、片方だけでは成果はない。近隣の「国民宿舎 鶴の岬」は宿泊施設の魅力があるから人が集まると思う。確かに海は美しいが、宿泊施設が良いサービスを提供していかなければ、それだけでは人は来ない。従業員のサービス、食事、施設内容、料金など、宿泊施設の自らの努力があつての人気である。

高萩市の観光は、「磨けば光る」はず。誰が磨くか?行政だけでは限界がある。市民一人ひとり、それぞれの事業者が協力し合って、アイデアを出し、動かしていかなければいけない。「どうせ高萩市は頑張っても無理」「このまま静かに暮らせれば、自分は他のとこへ行って遊ぶからいいよ。」と思っていれば、街は決して良くならない。高萩市の観光はみんなで磨くべきである。

学校におけるSNS教育について

質問 スマートフォンやタブレットなどの普及によって子供たちが犯罪に巻き込まれることが多くなっている。基本的に小中学校へはスマートフォン等の携帯電話は持ち込み禁止、どうしても必要な場合は登校後学校が預かることになっているところがほとんどだが、昨年の11月、大阪府は2019年度から小中学校でのスマホを解禁にするというニュースがあった。災害時の緊急連絡に利点があるということで決まったそうだ。大阪府では今年度中に学校内での管理を、利用方法のガイドラインを示す方針だそうだが、果たしてそれが大丈夫なのかどうかという意見が多い。

ゲーム、ネットでのやりとりのことに夢中になって、コミュニケーション力低下、スマホ依存になる。脳や目に悪影響、睡眠不足やストレスの原因となる。勉強時間がなくなる。ながらスマホが原因で事故、さまざまな問題がある。今までには基本的に禁止というところがほとんどだった。そしてスマホという高額なものを持たせられる家庭ばかりではないという点からも、持ち込みを解禁するのはやはり問題がある。持っていないといじめられる子も出てくる。高萩市の小中学校では、現在子供たちがスマホを学校に持ち込んでいるかどうか、それをどういうふうに取り扱っているのか。

教育部長答弁 本市の学校では原則として校内での携帯、スマートフォン等の使用は認めていない。校内への持ち込みについては、小学校では特別な事情があり、保護者から申請があった場合のみ認めており、その場合は、登校後に職員室に預け、下校する際に返却する形をとり、緊急時の連絡に使えるようにしている。中学校は、校内への持ち込みは認めていない。現在、申請があり、持ち込みを認めている児童は合計で8人。主な理由としては、学区外通学のため、または持病があるためなどである。

質問 小学校の高学年の学年行事において、親子で学ぼうという時間がとられていた。専門的な話も聞かせていただき、非常にいい機会だと思ったが、保護者は希望者のみの参加だったし、6年間に一度だ。年間に何回かノーゲームでノースマホデーという日が決められていて、その日は使わないようにしましょうという呼びかけがあった。今はスマホやタブレットを持つ子供は多くなってきており、状況はかなり変わってきた。現在、それぞれの学校では、子供に対するスマホの使い方についての指導というのはどのように行っているか。

教育部長答弁 家庭でのルールづくりやフィルタリングの利用など、保護者による働きかけが最も重要。家庭と学校が連携して子供たちの使い方を見守っていくという姿勢も大切。学校では、児童生徒と保護者の両方に働きかけ、情報モラルとマナーの向上に努めている。児童生徒への働きかけとして、SNSトラブルの実例と対処法の学習をはじめ、生徒主体による学校独自のルールをつくり、生徒作成の生活改善ムービーによる呼びかけなどを行っている。保護者に対する働きかけとしては、親子学習会の実施、各種だよりを通しての啓発、新入生保護者説明会での指導などを行っている。指導に当たっては、県が派遣しているメディア教育指導員や携帯スマホ会社の指導員、弁護士、高萩警察署署員など外部人材を積極的に活用している。また、教育委員会としても、インターネットを正しく利用するための高萩市のルールを作成し、啓発活動に取り組んでいるところである。

質問 2020年、デジタル教科書、プログラミング教育が始まり、今よりも子供たちがデジタル機器を手にする機会は圧倒的にふえることになる。では、何が必要なのか。どうすることが危険なのか、人に迷惑をかけることになるのか、ルール違反になるのか、子供たちに教えてあげなければならない。そして大人は使い方がわかっているかというと、私はそうでもないと思う。そういう教育を受けないで大人になっているから、モラルがわからない人がいる。だから、車や自転車を運転しながらスマホで事故、バイトが不適切動画を平気で撮影、アップして、大炎上。詐欺にひつかかってしまうこともある。子供の保護者でさえ、その危険性に気づかずに、知っている人にだけ見せるつもりでフェイスブック、ツイッターに、子供の写真、名前まで出してしまう人もいる、そしてゲームに夢中になって一緒にいる子供の様子を見ていない大人、歩きながらスマホを見て、子供の飛び出しや騒いでいるのを、知らん顔している人。いろいろメールに惑わされている大人もたくさんいる。大人ももっと知らなければならない。大人になってしまふと、そういうことを学ぶ環境というか、機会が限られてくる。今の子供たちにはそのような大人にならないためにも、**今の学校教育の中でそういった知識を身につけてあげるべきだと私は思うが、今後、考えがあれば、お尋ねしたい。**

教育部長答弁 私たちはスマホを使わないで育ってきている。大人も十分な使い方はまだ理解していない。

しかし、これだけスマホが世の中に出回っているということは、メリットがたくさんある反面、デメリットもある。現在、先生方が子供たちに指導するというよりは、スマホの会社の方が来て、年に1回程度、正しい知識を子供たちに教えているというのが現状である。そのほか学校では、学級指導の時間に先生方がお話をしている。ある中学校では、子供たちの中で、使い方5か条をつくっている。1、時間を決めて使う。2、悪口を書かない。3、個人の情報を載せない。4、親の許可なく課金しない。5、顔も知らない人とやりとりしたり会ったりしないなどと、与えられているのではなくて、自分たちから約束を決めようということでつくっている。また、他の中学校では、こんなことをしたら危険だよという自分たちで動画をつくって、自分たちの中で啓発しているという、いい効果が出ている。しかし、これでは十分ではない私も理解しており、今後、現在つくっているルールをもとに学級指導で確実に指導していく体制をつくらなければいけない。

